



電気「頼らない」冬の過ごし方

日照時間が短い冬は、夕方以降に、家庭での電力需要が増えるため、家庭での節電が重要となります。

家庭での電力需要が多い家電製品はこたつやエアコンなどのため、寒いからといって設定温度を上げると電力需要が増えてしまいます。

今回は、電気に頼らない冬の過ごし方についてご紹介します。

■着るものを工夫
ジャンパーやはんてんを着たりひざかけを利用しましょう。体感温度が約2℃アップします。

■湯たんぽを利用
就寝前に布団の中へ入れておけば、暖かくぐっすり眠ることが出来ます。また、椅子に座っている時には、湯たんぽに足をのせておくだけで、全身がぽかぽかになります。ただし、湯たんぽは、長時間使用し続けると低温やけどになる場合がありますので、ご注意ください。

■日差しを上手に取り込む
日当たりのよい窓はカーテンなどで日差しをさえぎらず、室内へ日差しを取り込みましょう。暖房費が節約できます。

■ゆずや入浴剤を使う
お風呂にゆずや入浴剤を入れてみましょう。ゆずや入浴剤には保温効果があり、体が温まります。ただし、皮膚が弱い方は、使用に注意しましょう。



「森林整備と原木安定供給に関するシンポジウム」

那珂川町の森林は八溝林業地を形成し、質・量ともに県内有数の森林資源があります。しかしながら、森林経営意欲の低下などの影響で、資源の有効利用がスムーズに進まない現状です。

そこで、那珂川町の森林はどうあるべきか、どう活用していったら良いのかを皆で考え、皆で学ぶため、有識者を交えたシンポジウムを開催します。ぜひ御参加ください。

日時 12月16日(金) 午後1時～午後4時(予定)
場所 馬頭総合福祉センター 集会室
内容
第一部 基調講演 「バイオマス先進国・オーストリアの現状と課題」(仮題)
第二部 パネルディスカッション 「森林資源(製材からバイオマス)を活用した地域おこしを探る」(仮題)
参加費 無料
問い合わせ 企画財政課企画調整係 0287-92-1114

私たちの団は、佐藤喜三郎という海軍出身の剣道7段の先生が、スポーツ少年団活動にいち早く取り組み、昭和30年代に活動を始めました。小・中学生、高校生などが当時から参加しており、また社会人も一緒に練習していました。先生の考え方に沿って、今でも将来の立派な指導者を育成することを目的に活動しています。剣道の活動のほか、町の行事に参加して社会勉強をしたり、中学高校生のリーダー活動に参加することで、小学生団員の指導について学んでいます。各種大会や試合などは、年間10回程度です。町スポ少本部事業により、他団との交流も行っています。また、スポーツ少年団の主なる事業のひとつであるドイツとの交流についても、ホームステイに積極的に取

シリーズ「スポ少」紹介⑨ 馬頭剣道スポーツ少年団



り組み、指導者、保護者団体とも国際交流はなじみの深い事業となっております。団は、保護者会により運営されていますが、今後は、保護者会OBにも指導者として活動に参加してもらい、幅広い活動を目指したいと思います。活動の場所ですが、北向田地区に新たな剣道場ができました。今後は、この道場を拠点に、剣道とあわせて地域との交流も図りながら、子どもたちにとってより幅広い活動ができるのでは、と楽しみです。なお、団の活動日(定例)は、毎週 火曜日・土曜日 夜7時から8時30分です。朝の練習は、年間を通して毎朝6時から6時30分、希望する団員で行っています。【連絡先】 団長 小川 俊介 090-1058-7916 保護者会長 佐藤亜樹子 0287-93-0268

広報文芸

俳句

牧水と一献酌まむ秋の宵
上野のかけこみ寺や霧月夜
那須五嶽あきつ空を支え聳つ
木守柿天に残して梯子引く
焼岳の紅葉を映し大正池
参道の杉にからまる葛紅葉

馬頭 佐藤 栄
吉田 国安 薫
小川 和泉すみを
久那瀬 星 健彦
松野 大門 正一
松野 大高 富美

短歌

震災に古蔵崩れ広々となりし跡地に夕闇せまる
籠り居の空心を解く如き友より享けし花に慰さむ
風に舞う榊枯れ葉の限りなし古りし木刀薙刀みながく
夏の一切見盡したるやカンナいま終のすがたを夕陽に晒す
夫に似て世話好きらしき青年が娘を嫁にくださいと言おう
秋開ける峽のなだりの麦畑深き緑が孤高を保つ

小川 古澤 實
小川 郡司 喜恵
吉田 塚原 タイ
馬頭 西宮 定子
馬頭 五月女トミノ
和見 藤田 和夫

川柳

束の間の喜び消えて泣いた緑
出不精の父母に取りやめ旅プラン
ひと夏の夢へ選外通知来る
そんな気にさせた仲居の酌で飲み
現実が皮算用を消してゆく

小砂 笹沼 季子
大山田下郷 佐藤 有紀
谷田 岡崎 甫子
小川 平澤 照雄
薬利 大嶮 克明

新着図書

那珂川町図書館



【外事警察】 麻生 幾 / 著 (NHK出版)
すべての始まりは、外事警察の内部資料流出事件で明かされた「協力者」である女の存在だった。女の存在を隠蔽しようとする日本の外事警察と、その女を密かに追う韓国NIS、FBIの捜査官。数奇な運命の女を巡る、各国の激しい情報戦の先に見え隠れするのは迫り来る核テロの現実的な脅威だった。陰謀、裏切りが渦巻き、圧倒的リアリズムで描写する緊迫のサスペンス謀報小説。



【水の極】 道尾 秀介 / 著 (講談社)
老舗旅館の長男、中学二年生の逸夫は、自分が普通で退屈なことを嘆いていた。同級生の敦子は両親が離婚、級友からいじめを受け、誰よりも普通を欲していた。文化祭をきっかけに、二人は言葉を交わすようになる。「タイムカプセルの手紙、一緒に取り替えない?」敦子の頼みが、逸夫の世界を急に色付け始める。だが、少女には秘めた決意があった。いま最も眩しい作家が描く、成長と再生の物語。



【14歳からの原発問題】 雨宮 処凛 / 著 (河出書房新社)
原発の中では何が起きている?なぜ日本に原発ができたのか?そもそも原子力発電ってなに?二十キロ圏内に残り残された動物はどうなっているの? 三・二まで原発に無関心だった著者が、素朴な疑問を専門家にぶつけ、原発が突きつける私たちの望む未来について考える。これからの生き抜くための「原発問題」入門書。

- ◇「星やどりの声」 浅井リョウ / 著 (角川書店)
- ◇「あつあつを召し上げれ」 小川 糸 / 著 (新潮社)
- ◇「花明り」 山本一力 / 著 (祥伝社)
- ◇「二分の一」 井上ひさし / 著 (講談社)
- ◇「ボトムレス」 拓末 司 / 著 (NHK出版)
- ◇「任侠病院」 今野 敏 / 著 (実業之日本社)
- ◇「謎解きはディナーのあとで2」 東川篤哉 / 著 (小学館)
- ◇「銀色の絆」 栗井脩介 / 著 (PHP研究所)
- ◇「iPhoneアプリ大事典」 芝田隆広 / 著 (技術評論社)
- ◇「見てわかる、断捨離」 やましたひでこ / 監修 (マガジンハウス)
- ◇「暴力団」 溝口 敦 / 著 (新潮社)
- ◇「スノーボードはじめてBOOK」 スノーボーダー編集部 / 編 (実業之日本社)
- ◇「安全な食材と食べ方がわかる本」 内部被曝を避ける会 / 著 (洋泉社)